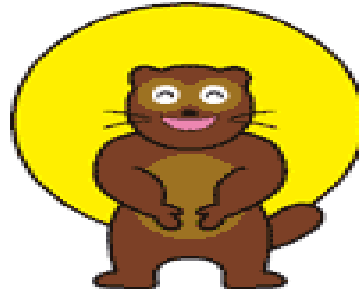
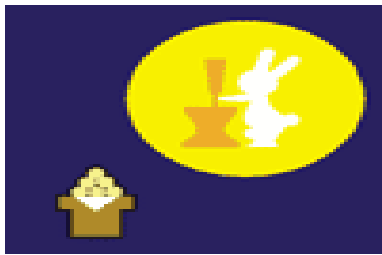


相談室だより (米の山) 2010年9月

担当：米の山病院 MSW 渡辺

9月に入りあの暑い日々からようやく過ごしやすい季節となってきましたが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？さて今回の相談室だよりは、最近増加傾向であるキーパーソン不在となる患者様の事例紹介を行いたいと思います。



Aさんの事例

Aさん 72歳 男性

パーキンソン病の治療と貧血の精査目的で当院へ紹介入院となった患者様です。自宅でちょうど介護保険の申請をされたばかりだったので、1ヶ月ほど貧血の治療とリハビリを行ない退院となる予定でした。

1ヶ月後に要介護3の認定があり、包括支援センターから担当ケアマネジャー(以下CM)へ担当者が変更となりました。CMからの情報では、自宅を訪問したが、家が廃墟となっておりとても住める状況ではないので、何とかしてもらえないだろうかとの依頼があり介入を行なうことになりました。

数日後にAさん宅を訪問すると外壁が崩れており、窓ガラスは割れ、1部屋は雨漏りのため室内に水たまりができるなど、劣悪な環境でした。また、いつ床が抜けてもおかしくない状況だったため、このまま自宅に帰すことは危険と感じました。

Aさんは、今までは弟の援助で何とか自宅で生活されていましたが、唯一の身内である弟も病気のため入院となり(後日亡くなり)キーパーソンが不在となりました。施設入所も含め今後について、Aさん・CM・MSWで何度も話し合いを行ないましたが、Aさんの自宅での生活への意思が強いと判断し、在宅で生活できる環境を整えることで調整していくことになりました。

まずは自宅での生活が危険なため、家を探すことからとりかかりました。CMの積極的な協力よりなんとか家を見つけることができましたが、Aさんは生活保護を受給されていたため、引越などをする際にも、保護課との調整が必要な状況でした。

みなさんをご存知でしょうか？生活保護を受給されている方が引越しを希望される場合には、それなりの理由がなければ、引越しが難しいことを(@_@)

引越しに際しても、複数の業者の見積もりを保護課に提出した上で、保護課から業者の指定を受けることになっています。ここでもさらに時間が必要となり自宅復帰までには、しばらく入院が必要になってしまいました。入院期間中はリハビリを行っていましたが、パーキンソン病の進行により、自宅に帰っても転倒のリスクがあることが予想されましたが、スタッフの協力のもと無事に退院となりました。

Aさんには退院後の生活用品がほとんどなく、退院当日にスタッフで買出しや掃除、クリーニングなどを手分けして行い、なんとか生活できる状態になりました。Aさんは、新しく始まった自宅での生活がとてもうれしそうでした。

サービス導入で在宅に帰られたため、今後はCMへ全般的に援助の依頼を行い、このケースを終了することになりましたが、CMの話では自宅でもよく転倒されており心配しているとの情報を得ています。

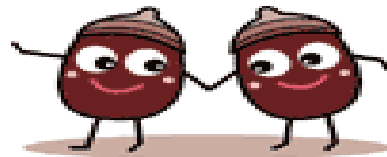


Bさんの事例



Bさん 48歳 男性

脳梗塞のためリハビリ目的で転院されてきた患者様です。転院先病院より精神疾患(発達遅滞)があり、キーパーソンも不在の患者様との情報を得ていました。当初、成年後見人制度の利用を考えていましたが、Bさんにはまだ判断能力があるため、申請するのは難しく、まずは金銭管理等を保護課協力のもと民生委員にお願いすることになりました。今後についても保護課・福祉課と協議を行いましたが、結論はだまませんでした。当初リハビリされていたBさんも入院生活へのストレスからリハビリ意欲を失い、自宅へ帰って欲しいとの要望が強くなり、検討した結果、自宅退院の調整を行っていくことになりました。退院前に自宅での生活状況を知るために、民生委員と自宅訪問を行ないましたが、今の状況では在宅生活を送るのはサービスを導入しなければ難しいと思われました。Aさんは48歳と若く、生活保護も受給されていたため介護保険ではなく、障害者自立支援でのサービス導入での調整が必要となりましたが、脳梗塞からそれほど日がたっていないことで、肢体不自由での身体障害者手帳の申請がまだできていませんでした。そのため福祉課と協議を行い、精神障害での自立支援サービスで支援していくことになりました。今月にはBさんへの訪問調査が終了し、来月は認定審査会の結果が出ることとなります。ようやくBさんの自宅に帰りたという要望に応えられそうです。しかし帰るまでには、ライフラインの復旧や清掃、サービスプランや身体障害者手帳の申請などまだまだやることがたくさんあり、もうしばらくはBさんから離れられない日々が続くそうです……。



厚生労働省は、日中、高齢者を預かるデイサービス施設に宿泊ができる制度を始める方針を固めました。現在は試験的に施設で導入されています。今後は介護保険の対象にする方針で、来年度予算の概算請求に8000床分の施設改修費を盛り込んでいます。在宅介護を支えるカギになりそうですね。

先日、DST(退院支援チーム)の会議メンバーで施設訪問を行いました。病棟看護師が中心ということもあり、現場で感じている疑問や要望などをざっくばらんに話しました。やはりお互いを知ることが連携を強めていく鍵ですね。

9月より米の山病院ホームページにてブログが開始となりました。いろいろな職種の人達が書いていますので、内容は様々ですが、見られたことがない方は一度見てみては？
以外と？おもしろいですよ(^_^)

